思い違いと誤解

PECS®について聞いたことはあるかもしれないですが
本当に PECS が何かしっていますか？

絵カード交換式コミュニケーションシステム® (PECS®)についての
よく起こる思い違いと誤解

Amanda Reed, Past Director of Developer for PGMSC
ピラミッドグループマネージメント

ここ約 10 年ほどで PECS は自閉症の介入法としてよく知られるようになってきました。たくさんの方々が PECS という言葉を聞いたことのある中で、やはり絵カード交換式コミュニケーションシステム（PECS）とは何かについての思い違いや誤解が存在します。下記の項目は我々がよく聞く思い違いや誤解の中のひとつです。

絵カードを使っていればそれは PECS

確かに PECS は絵カードを使いますが、PECS とは表出のコミュニケーションの中で絵カードを使うことで自身の欲しいものや必要なこと、自分の周りのことについてコメントすることを教える特定の手続きのことを指します。手続きには６つの指導段階があり、それに加え属性語（例：色やサイズ）を教えていく方法もあります。応用行動分析と言語療法の概念や知識を組み合わせ、役に立つコミュニケーションを教えるための効果的な指導法になっています。この指導法は Andy Bondy, Ph.D. と Lori Frost, M.S., CCC-SLP, によって 1985 年に作られ、最新のマニュアルである絵カード交換式コミュニケーショントレーニングマニュアル第２版に教え方が書かれています (Frost & Bondy, 2002)。このトレーニングマニュアルはコミュニケーションや行動分析の分野の専門家によって、この革新的なコミュニケーションを教えるシステムの１つとしての PECS を指導する効果的な、また実践的な教授本となっていると言われています。

視覚的スケジュールを使っているので、私たちは PECS をしている

PECS はコミュニケーション障害がある方々にとっての表出コミュニケーションシステムです。視覚的スケジュールは受容、理解コミュニケーションです。PECS の中で使う、教育へのピラミッドアプローチ®の中では視覚的スケジュールを使いますが、これは PECS とは違うものです。

PECS は発語のない人たちのためのもの

PECS は発語がない方々にとってのとても有効的な役に立つコミュニケーションシステムではありますが、PECS を使って発語がある方々に重要なスキルを教えることもできます。PECS の指導手続きは他者に自分からコミュニケーションを働きかけるように教えることを重要視しています。発語が出来ても、誰もいない部屋でしゃべったり冷蔵庫に話しかけたりと他者に働きかけないといけないということを理解していない人もいます。このような傾向がある方々は PECS を通じてコミュニケ

著作権　2020 年、ピラミッド教育コンサルタントオブジャパン（www.pecs-japan.com）　複写可能

ーションでの対人スキルを学ぶことがででるでしょう。ほかには、発語が出来ても他者が質問したり、言葉を使いなさいと言った時にしかしゃべらない人がいます。このような方々は PECS を通じて自発コミュニケーションを学ぶことができるでしょう。PECS とは発語がない方々にとっては代替コミュニケーションシステム、発語がある方々にとっては拡大コミュニケーションシステムになります。

PECS は幼児だけが対象

PECS は 14 ヵ月の幼児から 85 歳の方まで使用されています。確かに年齢やコミュニケーションの難しさの違いによって学習プロセスに違いがあるかもしれませんが、PECS はどの年齢の方々にも使える効果的コミュニケーションシステムです。

PECS は要求を教えるだけのもの

要求は PECS で一番最初に教えるスキルですが、指導手続きの最後のフェイズ（段階）ではコメント（…が見える、…が聞こえる、…がある、など）を教えることに焦点を当てます。PECS はただ単に自分のニーズ（要望）をかなえることを教えるのではなく、自分の周りのことについてコメントすることも教えます。

対象の方々が PECS で要求をすれば、支援者はその要求をかなえないといけない。なので“甘やかされた子”になる

PECS 指導手続きの中では、フェイズ I と II では全ての要求をかなえてあげます。この段階では、PECS の使い方を学んでいる方々がコミュニケーションシステムやコミュニケーションの相手を信用することを学んでいるからです。“ダメ”をあまりにも早い支援の段階で教え始めると、コミュニケーションがいつも役に立つんではないんだという経験をしてしまうため、PECS を学んでいる人はコミュニケーションすることをあきらめるかもしれません。PECS のフェイズ II を習得すれば、支援者として対象者は根気強いコミュニケーターだということがわかるので、自分の要求したものがいつももらえるわけではない、時には“ダメ”と言われる時もあるという概念を教えるには適切であるといえます。

PECS を使ってしまうとしゃべらなくなる（発語がでなくなる）

他の代替コミュニケーションシステムと同じように、PECS をつかっていると発語が出てくる傾向があります。研究論文の中には PECS ユーザーの発語の出方などを研究しているものもあり、研究結果は PECS によって発語がでてくることもあるという結論を出しています。 我々にわかっていることは、もし対象者が PECS を使っていく中で発語が出なくても、その方は生きていく中でたくさんの人々とコミュニケーションする効果的な方法をこれからも持っているということです。

PECS は自閉症の方々のみに 使うもの

PECS はアメリカ合衆国のデラウエア州自閉症プログラムから始まったものであり、確かに自閉症児への介入法として使い始めました。しかし、20 年以上の実践の中でわかってきたことは PECS は

コミュニケーション障害を持つ様々な障碍を持っている方々に対しても効果なコミュニケーションとして使えるということです。PECS は自閉症、ダウン症、猫泣き症候群、アンジェルマン症候群、発達遅延、言語障害、発達言語協調障害、頭部損傷…などリストは続きます。

終わりに…

絵カード交換式コミュニケーションシステム (PECS, Frost & Bondy, 2002) は、世界中からコミュニケーションの主要な要素に焦点を置いて教えることで一目置かれているユニークな代替・拡大コミュニケーショントレーニング手続きです。PECS は複雑で高価な教材などは一切必要としません。教育者、入所施設スタッフ、家族などと共に作られ、多様な実践現場で使われています。このシステムは様々なコミュニケーション、認知、身体的な障碍がある方々へのコミュニケーションとして広くつかわれています。

絵カード交換式コミュニケーションシステムのトレーニングはピラミッド教育コンサルタント―Andy Bondy と Lori Frost が筆頭の世界中に存在するグループ社―によって実施されています。ピラミッド社のコンサルタントは Dr. Bondy と Ms. Frost と共に一丸となって専門性を維持し、PECS の手続きに関する新しい情報などを学んでいます。

著作権　2020 年、ピラミッド教育コンサルタントオブジャパン（www.pecs-japan.com）　複写可能